

Lyric Colors

リリック カラーズ

vol.15

2025
3.25発行
TAKE
FREE



スペシャルインタビュー

津軽三味線 上妻宏光 × 箏 LEO
ソプラノ 種谷典子 & テノール 小堀勇介
TRES 沖仁 × 大萩康司 × 小沼ようすけ

注目公演

長岡少年少女合唱団 第44回定期演奏会

あなたの毎日に
芸術文化の
いろどりをー。

公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団 広報誌

第44回 長岡少年少女合唱団 定期演奏会

4/27日 入場無料 開演 14:00 長岡市立劇場 大ホール

今回の定期演奏会では、子どもたちの明るく澄んだ歌声によるハーモニーが美しい童声合唱曲などをはじめ、お馴染みのディズニー映画の曲で春の訪れを感じさせてくれるプログラムをお届けします。また、今年には戦後80年を迎える節目の年。絵本や小学校の国語の教科書にも掲載されている「ちいちゃんのかげおくり」の合唱劇にも挑戦します。戦争を語り継ぐ大切さをみなさまにお伝えできるよう気持ちを込めて歌います。どうぞお楽しみに♪

曲目
女声・同声合唱による10のメルヘン「愛するうた」
童声(女声)合唱とピアノのための「ひびかせうた」
Let's GO! 「ディズニーの歌の世界」へ
児童合唱組曲「ちいちゃんのかげおくり」
原作:あまんきみこ

団員コメント

合唱団には優しいお兄さん、素敵なお姉さんがたくさんいます。みんなが歌声を上手に合わせることができると楽しいです!今年には戦後80年です。定期演奏会では「ちいちゃんのかげおくり」を演奏しますので、たくさんの人にみてもらいたいです。
〈小学5年生 脇田隼仁〉

合唱団では、幅広い曲に挑戦し、仲間と声を重ねる楽しさを日々実感しています。定期演奏会で演奏する「ちいちゃんのかげおくり」は、曲に込められた願いに向き合い、平和を想いながら歌います。ぜひ聴きに来てください!
〈中学3年生 宇土奏羽〉



団員募集

長岡少年少女合唱団では、音楽や詩と向き合い、そこに込められた想いを、声を重ね、音を重ね、心を重ねて表現することを大切に歌っています。その歌は、私たちの心を繋ぎ、聴いている人の心にもきっと届くはずと信じて。そんな表現をめざしている合唱団の仲間へ、心がかよひ合い、みんな仲良し。みなさんも「心に届く歌」をめざす私たちの仲間になりませんか!

指導 中村 美智子

【2025年の主な活動予定】

- 6/14(土) HEARTS (ホノルルの子どもの合唱団) & 長岡少年少女合唱団 ジョイントコンサート(長岡リリックホール)
- 8/23(土) 新潟県少年少女合唱団 合同演奏会 (新潟市民芸術文化会館りゅうとびあ)

ほかにもたくさん出演します♪

保護者の声

中2と小5の姉弟がお世話になっています。きっかけは、娘が学校から持ち帰った定期演奏会のチラシでした。ホールでの歌声に心動かされ、見学に行くと、団員のお姉さんたちが賑やかに迎えてくれました。手を引かれるまま練習の輪に加わり、休憩時間は全力で鬼ごっこ。新しい仲間を歓迎するこの和やかな空気は、今も変わりません。数々の舞台を経験し、学年を越えた深い繋がりのなか伸びやかに歌う子どもの姿は、我が家の何よりの喜びです。(大楽光沙)

〈平和の森コンサート〉
〈越後丘陵公園Xmasコンサート〉

【表紙】
2月1日に実施した「管・打楽器演奏体験会」の様子。小学4年生から6年生を対象に100人以上の子どもたちが、初めて触れる金管・木管・打楽器に挑戦しました。

箏

箏の種類

箏には十三絃、十七絃、二十五絃などがあります。十三絃がスタンダードで、僕が長年学んできた楽器です。十七絃は今から100年前に生まれたもの、二十五絃については30年前に完成したばかりの歴史が浅い楽器。いずれも西洋楽器の影響を受けて開発されたもので、十七絃は低音が良く響き、二十五絃はより幅広い音域に対応できます。

ちなみに、今回は十三絃を主に使用しましたが、今回は二十五絃を中心に演奏する予定です。民謡など伝統的な曲の演奏もあるのですが、津軽三味線と箏のためにアレンジしますし、津軽三味線とのバランスや、更に僕たちらしさの味を加えるためには二十五絃が合うのかな…と考え中です。

箏の多彩な音色

お正月によく耳にするような箏の音色とは全く違う、それぞれの作品にあった演奏をします。ギターっぽく聴こえる瞬間もあるでしょうし、ハーブやピアノの様な音色を出すこともあります。箏の多彩な音色を楽しんでいただきたいです。また、箏の奏者にとっては珍しい、即興的な演奏を取り入れる予定です。お客様に新鮮で斬新な(津軽三味線×箏)のデュオにわくわくしていただきたいです。



Profile LEO
箏奏者

1998年横浜生まれ。9歳より箏を始め、カーティス・パターソン、沢井一恵の両氏に師事。16歳でくまもと全国邦楽コンクールにて史上最年少・最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。一躍脚光を浴び、2017年19歳でメジャーデビュー。同年、東京藝術大学に入学。「情熱大陸」「題名のない音楽会」「徹子の部屋」など多くのメディアに出演。セバスティアン・ヴァイグレ、井上道義、秋山和慶、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団などと共演。藤倉大委嘱新作の箏協奏曲を鈴木優人指揮・読売日本交響楽団との共演で世界初演し、2024年にはスロヴァキア及びウィーンにおいてそれぞれ招聘され、同曲で好演を果たしている。SUMMER SONICに異例の出演を果たし、箏奏者として初めてブルーノート東京でライブを開催したことで話題を集めた。

津軽三味線

津軽三味線のルーツ

実は津軽三味線のルーツは、新潟の警女さんにあるんですよ。そういう意味では、警女さんが演奏し、歌ってこられた土壌がある長岡には津軽三味線の源流が流れていると思っています。長岡のみなさんには何かしらの共通性や親しみを感じて聴いていただけるのではないかと予感しています。

津軽三味線は生演奏が一番!

ジャズのような、その場でしか聴けない一期一会的な演奏が津軽三味線の醍醐味。そして、なんといってもバンバンとバチを叩きつける迫力は、中竿細竿にはない魅力。初めて聴かれる方は、「こんな大きな音が出るんだ」と驚かれると思います! 更に、糸の擦れる音、さわりと呼ばれる津軽三味線の特徴的な構造があるのですが、ビーンという独特の割れたような響きなど、生演奏だからこそ味わえる細かなニュアンスも楽しんでいただきたいです。

また、大音量の出る津軽三味線で、敢えて中竿細竿をイメージする“静”の柔らかな音を出すという奏法も僕は取り入れています。津軽三味線でこんな音色が出せるんだ、こんな聴かせ方もあるんだという、津軽三味線の違った一面お見せします!



Profile 上妻宏光
津軽三味線奏者

6歳より津軽三味線を始め、幼少の頃より数々の津軽三味線大会で優勝し、純邦楽界で高い評価を得る。国内外アーティストとのセッションは各方面から注目を集め、世界35ヵ国以上で公演を行っている。内閣総理大臣主催の公式首脳晩餐会などでは日本を代表して演奏を披露。近年はカザフスタンでの「2017年アスタナ万博」にてプロデュース公演を行い、中国では単独公演の実施や大型フェスへの出演も果たした。伝統をふまえながら時代に応じた感性を加え、異ジャンルのアーティストとの共演や舞台、映画、ドラマ他、様々なシーンへの楽曲など、その活動は国境を越えて津軽三味線の“伝統と革新”を追求し続けており、開拓の第一人者と言える存在だ。2025年にはソロデビュー25周年を迎える。

?

楽器の注目ポイントを
教えていただきました!

スペシャル
インタビュー

箏

LEO

上妻宏光

津軽三味線



和楽器界に新風を吹き込み、ジャンルにとらわれない音楽を探求し続けている津軽三味線奏者 上妻宏光と箏奏者 LEO。世界が注目するこの2人が、長岡リリックホールで初のデュオコンサートに挑みます!日本古来の伝統音楽と現代の感性を掛け合わせた、独創的な世界にご期待ください。今回は初共演に向けた、お二人の意気込みや、見どころなどについてお話を伺いました。

上妻さんは、いつでも先陣を切っていく
LEOさんは、いい意味で尖ってる

LEO / 上妻さんとは僕が20歳くらいの頃、テレビ番組の企画で初めて一緒しました。ただただ「三味線めちゃくちゃ上手い!」というのが第一印象です(笑)。他ジャンルの方との演奏であっても常にその力を発揮し、どんな場面でも先陣を切っていく姿から、いつもたくさんの方の目を惹きつけていただいています。

上妻 / LEOさんは、古典をきちんと学んでいるのが伝わる、しっかりした演奏をされる方。更に国際的な感覚を合わせ持っていて、何か違う香りがする独特の魅力がある奏者です。また、単に派手さを狙うとか、パフォーマンスでカッコよく見せろというわけではなく、和楽器のとても難しい楽曲にどんどん挑んでいます。外見からは想像つかない、音楽的な色々な面ですごく攻める、いい意味で「尖ってるなあ」と一緒に演奏するたびに感じています。

〈津軽三味線×箏〉は大きな挑戦

LEO / 上妻さんとは、何度も共演していますが、いつも大きな編成のなかだったので、「二人だけ」というのは、実は今回の長岡公演が初めてなんです!

2023年に三味線奏者の本條秀慈郎さんとリリックホールで演奏しました。本條さんの三味線は中竿でしたが、今回は太棒である津軽三味線と箏のデュオ。また、中竿と箏の組み合わせはスタンダードですが、太棒と箏というのはとても珍しく、曲もありません。今回は、新しい曲をたくさん準備して長岡での公演に臨みます。

上妻 / 色々な理由があつて、箏と津軽三味線の演奏はされてこなかったと思うんです。音量のバランスが難しいですし、この組み合わせで演奏できる力量がある奏者もいなかったのかもしれない

い…。そういった意味では、我々にとつて、とても大きな挑戦をするコンサートになりますのでご期待ください。

LEO / 曲目については、最近僕が民謡に興味を持つていて、この公演にも積極的に民謡を組み込んでいこうと考えています。上妻さんにはぜひ唄って欲しいなあと思っていますが、どうなるかわかりません。当日のお楽しみに(笑)!

上妻 / LEOさんのバックグラウンドにはない民謡にトライするということは、これまでにはない箏の魅力をお見せできると感じています。また、各々のオリジナル曲にも挑戦するのですが、上妻×LEOならではの音の世界を創りたいと思っています。そして、前回の本條秀慈郎さんの中竿とは違う、太棒と箏の特徴を活かした魅力を楽しんでいただければ幸いです。

和楽器の新たな魅力を

LEO / 2年前の長岡公演では、お客様は演奏もトークもすごく集中して聴いてくださり、反応もとても温かかったことが印象深いです。今回も、日本古来のどこか親しみを感じさせるような作品からオリジナル曲まで、更に幅広く用意したいと思っています。前回お越しいただいたお客様にも新鮮さを感じていただける内容にしますので、是非お越しください。

上妻 / 三味線や箏の存在は知っていても、どんな種類があつて弦が何本あるのか…といったことを知らない方は少なくないと思います。舞台上でのトークを通じて、お客様に楽器の基本的な情報だけでも持ち帰っていただけたら嬉しいですね。

そして、民謡などこれまでに演奏してきた曲を、いかに二人ならではの音楽に仕上げていくかということを意識して公演に臨みます。これまでに僕の演奏を聴いてくださった方にも、新たな津軽三味線の魅力をお見せいたします!

津軽三味線 上妻宏光 × 箏 LEO デュオ・リサイタル

5/10 土

長岡リリックホール・コンサートホール

開場 13:30
開演 14:00

全席指定 4,000円
U-25 1,500円

※未就学入場不可
※U-25をご購入の方は
公演当日、年齢確認できる
ものをお持ちください

Program
こきりこ節 / 赤とんぼ / 竹田の子守歌
ゼゴビアの夜(上妻宏光) / Clouds of Show(今野玲央) ほか

スペシャルインタビュー

©STUDIO KUMU



ソプラノ 種谷典子 & テノール 小堀勇介

華やかで美しい歌声と輝きを放つソプラノ歌手 種谷典子と、色彩豊かな表現力で定評があるテノール歌手 小堀勇介が長岡に初登場します。この公演が初デュオリサイタルとなるお二人に、プログラムの聴きどころや歌への思いを語っていただきました。

夫婦で初のデュオリサイタル

◆小堀 長岡に伺うのは初めてです。お酒が美味しいところでの仕事は足取りがとても軽くなります(笑)。実は、私たちは夫婦でして、二人でデュオリサイタルするのも初めて！初めてづくしの公演となります。

◆種谷 公演に向け、二人でプログラムを考えさせていただきました。メインはオペラのダイジェスト版「愛の妙薬」と「夕鶴」です。一部は華やかなイタリア、2部は情感深い日本をテーマに、異なる魅力を持った音楽の世界をお届けします。

◆小堀 「愛の妙薬」は、「惚れ薬」を巡って物語が進んでいく、恋愛模様を描いた喜劇です。そして、なかでも主人公ネモリーノによる「人知れぬ涙」は、テノールのアリアとしてとても有名です。

僕は、これまでにネモリーノを2回演じたことがあります。それぞれ日本を代表する演出家の方が手掛けた作品だったので、同じ作品であっても、演出家の解釈や、役どころの心情などの切り口を変えることで、大きくキャラクターが変わるということを知りました。この経験は自分にとって大きな糧となり、丁寧な役作りに取り組みるようになりました。今回は、屈託のない人を疑うことを知らない、僕にとって理想的なネモリーノを演じたいと思います。ぜひ、ネモリーノが片思いをしているアデー

ナとの恋の行く末をお楽しみください。

◆種谷 「鶴の恩返し」が元となっているオペラ「夕鶴」は、日本人にとって馴染みのあるストーリーでもありますが、日本語の抑揚と言葉で身近にオペラを楽しんでいただくと、思い選曲しました。一途に与ひようを想い、自分の身をやつし、献身的なつうの姿は、私たち日本人にとって共感できる部分があると思いますし、皆様の心を打つのではないのでしょうか。特に、つうのアリア「あたしの大事な与ひよう」は、壮大でありながら旋律が大変美しく、必死に訴えかけるつうの切実な心が描かれています。初めて聴く方もきっと一目惚れならぬ「聴き惚れ」していただけるメロデーだと思えます。また、「夕鶴」のつう役は、日本人のソプラノ歌手にとっては憧れでもあります。旋律から受ける印象や物語を素直に自分の心に投影し、純粋な心で作品に向き合い、私なりのつう役に挑みたいと思います。

二人が目指すステージ

◆小堀 オペラは、その役柄をどの様にお客様に伝えるのが最善なのかを考えながら演じています。演出家からいただいたプランを頭の中で精密に組み立てながら役柄を仕上げ、お客様に演出家の構想が伝わり、更に感動していただけた時はとてもやりがいを感じます。

リサイタルでは、完全に自分の世界を表現しています。歌手は客席と対面し、お客様の目を見ながら演奏することができる、ほかにはないタイプの演奏家だと思っています。客席の緊張具合を感じながら、今日は何色で表現したら喜んでいただけたかなど、その時々々の空気感に合わせた、温かみと人間味がある舞台を目指しています。

◆種谷 歌手は言葉を持つ楽器であり、声の美しさはもちろん、その言葉の意味を伝える責任があると考えています。発語しにくい音域もありますが、諦めずに作曲家が意図するその音でその言葉を表現できるように日々練習に励んでいます。その上で、歌とおして自分ができることを考え、最近歌わせていただいているのが、長崎原爆の被爆者永井隆が作詞した、山田耕筰の「南天の花」です。広島出身で被ばく3世である、私のアイデンティティを意識し、音楽活動に取り組んでいます。

また、公演をつくるうえで、出演者全員が同じ音の世界を目指すことを大切にしています。ピアノ奏者齋藤亜都沙さんは、約10年パートナーを組んでいるのですが、私が表現したい世界とうまく融合させて音楽を紡いでくださる貴重な存在です。この公演で、この3人で何色の世界をお見せできるのか、ご期待いただければ幸いです。

プロフィール

種谷典子

母が音大出身の声楽家で、児童合唱団の指導者をしていました。気づいたら私も団員になっていて、中学高校でも合唱部に入部し、自然な流れで声楽への道に進みました。オペラの出演などにおいても、作品創りに色々な役割の方が関わり、多くの方から支えていただいていることを実感しておりますが、「みんなで一つの音楽をつくる」という協調性を、児童合唱団時代に自然と身につけることができたと感じています。

国立音楽大学および同大学院を首席で修了。学部卒業時に武岡賞、大学院修了時に声楽専攻最優秀賞受賞。新国立劇場オペラ研修所修了。平成28年度文化庁新進芸術家海外研修員としてミラノおよびルガーノにて研鑽を積む。第24回リカルド・ザンドナイ国際コンクール(伊)特別賞受賞。第91回日本音楽コンクール第2位。二期会『椿姫』ヴィオレッタ、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディージ、『影のない女』鷹の声等多数出演。2024年には『魔笛』パパゲーナで新国立劇場デビュー。コンサートでも準・メルク指揮台湾フィル「合唱幻想曲」、マカオ国際音楽祭「第九」の他宗教曲のソリストとしても高い評価を得ている。二期会会員。

小堀勇介

小学生の頃、テノール歌手 アンドレア・ボチェッリのCDを聴いたとき、彼の情感豊かな美しい声に胸を打たれました。この歌を歌ってみたいと思い、夢中になって真似していましたが、小中高は運動部に所属していました。しばらくポップスばかり聴いていましたが、高校の音楽の授業で「帰れソレントへ」や「のばら」などの独唱声楽曲を歌う機会がありました。そこで、音楽の世界で生きていけたら面白いのではないかと思い、高校3年の夏に進路を決め、音楽の勉強を始めました。

国立音楽大学声楽専攻ならびに同大学院声楽専修オペラ・コースを首席で修了。2016年、イタリアに留学。ロッシーニの世界的権威であるアルベルト・ゼッダ氏のもとで研鑽を積み、チロル祝祭歌劇場にて《アルジェのイタリア女》リンドーロでヨーロッパ・デビュー。帰国後はびわ湖ホール《連隊の娘》トニオを皮切りに、日生劇場《愛の妙薬》ネモリーノ、《セビリアの理髪師》アルマヴィーヴァ伯爵など出演を重ねている。2019年第88回日本音楽コンクール声楽部門第1位など入賞多数。2025年は、日越外交関係樹立50周年記念オペラ《アニー・姫》荒木宗太郎(ベトナム)や演奏会などへ出演を予定している。日本ロッシーニ協会会員。

チケット好評発売中

種谷典子 & 小堀勇介 デュオ・リサイタル

5/31(土) 開場 13:30 開演 14:00

長岡リリックホール・コンサートホール

全席指定 4,000円 U-25 1,500円

※未就学児入場不可 ※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認できるものをお持ちください



- 〈プログラム〉
- ロッシーニ/セレナータ ♥★
 - アルディーティ/ロづけ ♥
 - ドニゼッティ/《愛の妙薬》♥★
 - 万城目正/越後獅子の歌 ♥♥★
 - 福島県民謡/会津磐梯山 ♥
 - 團伊玖磨/《夕鶴》♥♥★
- ほか ※♥種谷典子 ★小堀勇介 ※プログラムは変更する場合があります。予めご了承ください。

沖 仁
フラメンコギター



お互いの魅力

大萩／クラシックギターは密室で聴くもの、というイメージだったのですが、大萩君の演奏はまるで太陽のようで、彼のバックに青空が広がっている光景が見えてくるんです。「どうやったらそんな音が出るんだ?!」というジェラシーも感じますが、とろける様な音で僕を魅了してくれています。

小沼／即興の才能がすごい！フラメンコも即興性が強く、譜面を使わず感覚に頼って演奏しますが、小沼君はそこにジャズの理論と彼の感性が加わり、同じ曲でも毎回違う演奏をしていく。泉の様に湧き出てくるパフォーマンスにジェラシーを感じています(笑)。

ギターを始めたきっかけ

小学3年生でピアノを習い、その後尺八もやってみたりしていました。中学2年でBOØWYのコピーバンドを組み、最初はドラム、次にベースをやり、それからギターに行きつきました。フラメンコギターに辿り着いたのは20歳の頃。当時、クラシックギターで留学を決めていたのですが、ピセンテ・アミーゴのカセットテープを偶然聴いた瞬間に「自分にはフラメンコだ!」とビビッと運命を感じ、全てを覆し、フラメンコギターに転向しました。

あこがれる楽器

歌です。実はとてもヘタ(笑)。歌えないからこそ、その分ギターに打ち込んでいるんだと前向きに捉えています♪

フラメンコギターを岡弘詞、伊藤日出夫、セラニート各氏に師事。日本フラメンコ協会新人公演にて奨励賞受賞。2006年メジャーデビュー。2010年、スペインのフラメンコギターコンクール国際部門で日本人初の優勝。ソロ演奏に加え世界の各ジャンルのトップアーティストとの共演、オーケストラ、バレエ、長唄、能とのコラボ、EXILEなどへのシングル曲提供、フラメンコギターの教則本を出版など多岐に渡る。枠を超えたフラメンコギターの価値創造に全力を注ぐ。日本フラメンコ協会理事。



Photo by Kazumasa Harada

大萩康司
クラシックギター



お互いの魅力

沖／初めて沖さんの演奏を聴いたとき、自分が持っている種類の音でピンタされた感覚に陥りました。「こんなカッコいい音楽があるんだぞ!」と沖さんの音で言われた様な衝撃でした。今も一緒にいる度に、「カッコいいなあ」と思いながら聴き入ります(笑)。

小沼／初めて小沼さんのソロライブに行ったとき、まず、エレキギターを指弾していることに驚かされました。また、一音一音紡ぎだされてくるメロディーが万華鏡の様に瞬時に変わっていく演奏に、楽譜ありきのクラシック畑の僕は、これは譜面に収まらない世界観だなあと、圧倒されました。

ギターを始めたきっかけ

小児喘息でスポーツをすることが出来ず、家で遊べるものとしてクラシックギターを8歳で始めました。小学6年生のときにトランペットをカッコいいなと思い、始めたのですが、母にたしなめられ、1週間で辞めることに…なので、僕はクラシックギター一筋でやってきました。とはいえ、中学3年生の頃、BOØWYのコピーバンドに助っ人で参加したり、兄の影響で、X JAPANやメタリカを耳コピして弾いて遊ぶことはありました。

あこがれる楽器

昔からピアノが好き。指10本で色々なハーモニーがつかれる素晴らしい楽器だと思います。

高校卒業後、渡仏。パリのエコール・ノルマル音楽院、パリ国立高等音楽院で学ぶ。その後イタリアのキジアーナ音楽院で学び、4年連続最優秀ディプロマを取得。ハバナ国際ギターコンクール第2位、合わせて審査員特別賞「レオ・プロウエル賞」を受賞。これまでにNHK「トップランナー」[らららクラシック]やMBS「情熱大陸」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等出演多数。第6回ホテルオーケストラ音楽賞、第18回出光音楽賞受賞。



Photo by Kazumasa Harada

小沼ようすけ
ジャズギター



お互いの魅力

沖／仁君はフラメンコギターの可能性を世の中に伝えている人。ポップスやロック、邦楽などあらゆるジャンルとフラメンコギター特有の音色でアジャストすることができる。鋭いアンテナを持っているので、どんなシチュエーションでもしっかり自分の音を出す。そんな仁君の常に揺るがない強烈なフラメンコ魂を感じています。

大萩／大萩君は僕にクラシックの奥深さ、幅の広さを教えてくれました。初めて彼の演奏を聴いたのがキューバ音楽だったのですが、クラシックギターでラテンのリズムを刻み、こんな情熱的な表現ができるんだ!と衝撃を受けました。ジャズとクラシックは全く違う音楽ですが、同じエネルギーを大萩君から感じています。

ギターを始めたきっかけ

父の趣味がギターだったので、教えてもらうこともありましたが、小学生の頃はスポーツばかりやっていました。中学に上がり、BOØWYの「マリオネット」の最初のフレーズを弾けた感動に味を占め、本格的にギターを始めました。その後、ロックギタリストを目指し音楽学校へ進学したのですが、ジャズギターの授業で何もできず酷く落ち込みました。そんな時期に父がジョージ・ベンソンを聴いて「こんなカッコいい曲があるんだ」と、刺激を受け、そのままジャズにのめり込みました。

あこがれる楽器

ベース! 同じ弦楽器ですが全く弾けないです。低音楽器に憧れています。

1999年ギブソンジャズギターコンテスト優勝。2001年にSONY MUSICよりデビュー。2004年、リチャード・ボナ (ba)、アリ・ホニグ (dr) をフィーチャーしたトリオアルバム「Three Primary Colors」を N.Y. で録音。2010年「Jam Ka」発売。2016年、パリで録音された「Jam Ka Deux」をリリース。この作品をきっかけに Paris や Munich のジャズクラブ、Martinique Jazz festival、グオッカの本拠地 Guadeloupe で行われた「Festival Eritaj」に出演。最新作は初のソロギター作品「Your Smile」。



Photo by Kazumasa Harada



小沼ようすけ

沖 仁

大萩康司

Photo by Kazumasa Harada

TRES

トレス

[スペシャルインタビュー]

フラメンコギター 沖 仁、クラシックギター 大萩康司、ジャズギター 小沼ようすけ——日本を代表するギターの名手3人がタッグを組んだ、ギタートリオ「TRES(トレス)」が新潟県に初登場します! 異なるジャンルの絶妙なバランスと高い技術で織り成すメロディーは、これまで体験したことのない音の世界を魅せてくれることでしょう。今回はメンバー3人に「TRES」についてお話を伺いました。

ほかでは聴けない
「TRES」という
ジャンル

【沖】2020年にこの3人での公演の機会をいただき、1回限りの企画のつもりが予想以上に好評で、次の公演も決まり……という流れで、お蔭様で現在に至っています。スペイン語で「3」を意味する「TRES」と名付け、今年でちょうど結成5年目を迎えました。

【小沼】リーダーというのは特別な役割を仁君がやってくれていますが、僕や大萩君があれこれアイデアを出し、仁君がまとめてくれます。

【大萩】二人とも私の兄と同じ歳なんです。なんとなく、僕は弟的な位置にいて、お二人に挟まれていると妙な安心感があり、楽しく活動させていただいています。

【小沼】僕たちの演奏は、同じギターでも奏法も出す音色も違います。それぞれの弾き方のスタイルも全く違うので、見ているだけでも面白いです!

【大萩】ギターという楽器は幅広い表現ができる様に発展しているにも関わらず、クラシック、ジャズ、フラメンコなど、それぞれのジャンルの領域を自由に行き来できるところが、ほかの楽器にはない面白いところだと感じています。そのことを僕らの演奏で実際に体感していただけると思います。

【沖】ツアー前に合宿をやり、そこでプログラムの方向性を決める予定です。レパートリーはたくさん出ているので、長岡でどんな演奏ができるのかじっくり考えさせてい

ただきます。

【大萩】以前も、合宿をしたことがあるのですが、食べる時間以外はすべてギターを弾いていました。しかも一滴もお酒を飲むこともなく(笑)ーそれくらい僕たちはギターが好きで、それぞれがTRESの核であり、僕たちの色になっています。

【小沼】ソロはそれぞれのジャンルの音楽。デュオになると、ジャズとクラシック、フラメンコとジャズ……と、それぞれの音楽が混ざり合い、3人になると僕たちでしか創れない「TRES」というジャンルの音楽になります。クラシックでもジャズでもなくフラメンコでもない「なんだからこれ!」という音の世界で皆さんを魅了したいと思っています。

【沖】僕たちのコンサートは、ソロあり、デュオあり、トリオあり……で、あつという間に時間が過ぎて行きます。また、それぞれのジャンルが融合していく様子を味わっていたら、それがTRESの醍醐味でもあるので、そこを楽しんでいただきたいです。そして、似て異なるそれぞれのジャンルのギターの特徴や魅力も皆さんにお伝えしたいと思っています。ぜひ、長岡の皆様は僕たちの音楽を生で味わっていただきたいです。会場でお待ちしています!

沖 仁 × 大萩康司 × 小沼ようすけ

TRES

好評発売中

6/21

開場 13:30
開演 14:00

長岡リリックホール・コンサートホール

全席指定 5,500円

U-25 2,500円

※未就学入場不可 ※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認できるものをお持ちください